

ニ ュ ー レ リ ッ ク ・ ゼ ロ

NEW RELIC

NRをゼロから広めてみた件

NRUG-20220615

Zero

株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズ
井上 諒

目次

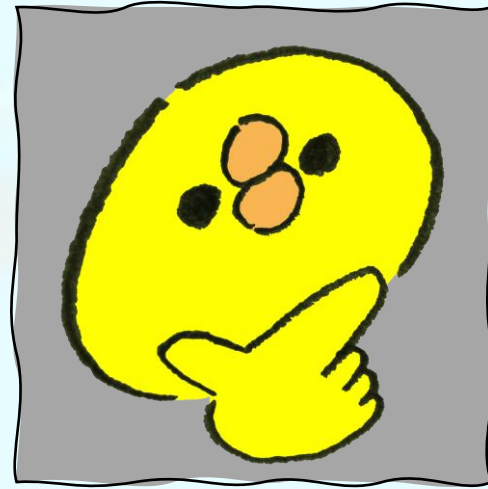
Chapter1 - 導入背景

Chapter2 - 模索期

Chapter3 - 光（かもしれない）

Chapter4 - 最後に





井上 諒 (いのうえ りょう)

2018.4-2020.3 API開発/データ連携基盤開発

2020.4-2022.3

ビジネスプラットフォームグループ：BPF開発
監視整備/Observability推進

2022.4-現在 CCoE担当/横串チーム
Observability推進 (SRE見習い)

MITSUKOSHI ISETAN



オフラインサービス
(基幹/商品/顧客/人事 etc...)



オンラインサービス
(EC/ギフト/化粧品/スーツ etc...)



その他サービス
(カード/ポイント/BtoB etc...)

コロナ禍
百貨店不況
多様化
システム複雑化
etc...
2025年の崖

トライ & エラーの行いやすい環境

DX推進のための基盤

2020年度からビジネスプラットフォームpjtが本格始動

システムモダナイズ (システム)

機能再整理 (サービス)

devOps化 (人)

ヒトもモノもコトも刷新

その中の取り組みの一環として...

オブザーバビリティへの移行

New Relic導入



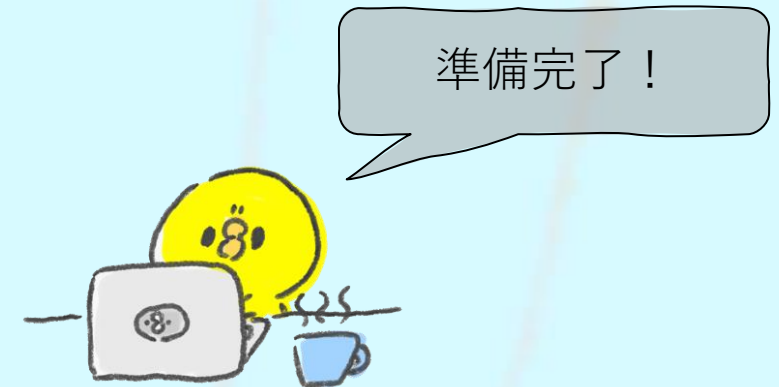
オブザーバビリティ?
イメージが湧かん...

時は流れ2021年2月...

ビジネスプラットフォーム（BPF）の機能も少しずつ軌道に乗り始め、



無事、導入完了。



しかし、本当の課題はここからでした。



オブザーバビリティ？

New Relicの使い方が分からない

NRQL...

最低限の機能は把握！



とりあえずやってみよう企画

オブザーバビリティとは？社内説明会
主要機能へのNR導入/展開
APIに対してのSynthetics
BPFダッシュボードの作成
ダッシュボードの週次PDF配信
Webhook→社内JIRA自動起票（+slack通知）

etc...

しかし...

全くと言っていいほど内部メンバーに影響がない...

それもそのはず...

これまで調査はcloudwatch logsベース。現状それで致命的に困ったことはBPF稼働後は無い。

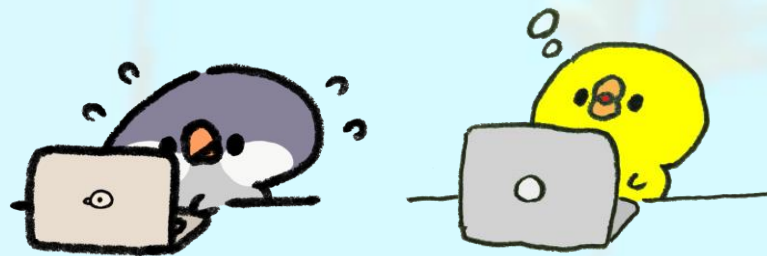
全くのゼロベースの人間がオブザーバビリティを覚え、整備できるようになるまでは時間と労力がかかる。
(井上の場合は1~2ヵ月程経過していた、重めの開発タスクを抱えている人たちはそれどころではない)

O11yへの移行を実現した先での姿がどうなるかイメージが具体化できていない

**段階的にでも上の問題点を解消しつつ
施策を打たないといけない
軌道に乗るためにはより加速が必要**

時は流れ2021年12月...

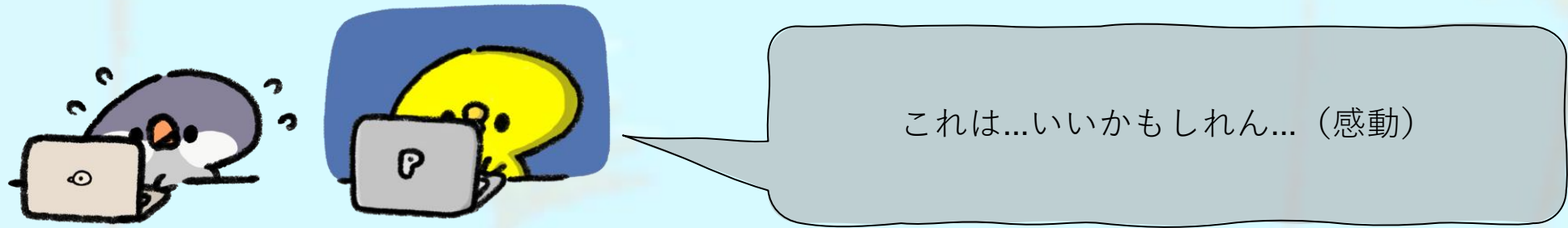
未だ十分な加速をせず、ポイントシステムモダナイズ+認証モダナイズ (2022年2月リリース) の準備に明け暮れていた...



色々やってみてはいるがなかなかヒットせん...
認証の監視方法を考えんと...



そういえば...ブラウザアクセスで使える
Syntheticsつかってみたかったな...
やってみるか...



これが予想以上にヒットした!!!

(自分でいうのもアレですが)

これまでシステムベースでの監視に偏っていた ←これがかなりの課題だった

システムベース：業務単位で見た機能群

サービスベース：ユーザ視点での実際に使われるサービスカット

これをサービスベースで監視することができるようになることで
意識を変化することができる起爆剤となった！
(とくに上位層にウケが良かった)

時は流れ2022年6月現在...

「BPF横串」の取り組みが正式に開始され、いろいろな取り組みが本格的に始まっています。

取り組み① 性能評価定例

週に1回弊社のメンバーのみならず、NewRelic社の方も招致し、定例を開始。
NRの利用成熟はもちろんのこと、今週全システム横串として「いつどこで何が起こったのか」を把握する機会としている。

取り組み② 横串としてのダッシュボード作成

上記性能評価定例に合わせて、シナリオダッシュボードと呼ばれる「サービスベース」に切ったダッシュボードを用意。
これまでシステムベースのダッシュボードが多かったが、機能ごとの切り方としての早急な確認を可能にしている。

取り組み③ 独自のオブザーバビリティ成熟モデル作成

NewRelicの「オブザーバビリティ成熟モデル」をさらに分解し、IMSにおける「成熟モデル」を作成。
このモデルをベースに全体で同じ方向向いて、システムもプロセスもこの成熟モデルすらも改善しながら進めるように取り組む。

取り組み④ Synthetics増量！

前スライドで記載したScripted Browserを利用したSyntheticsをいろいろなオンラインショッピングにおけるフローに展開。
商品によってもカート追加以降のバックエンドの経路が違っているので、パターンに合わせたSyntheticsを実施。

最後に...

狭い世界でももちろん強みはあるが広がったときにNew Relicの真価を発揮する

ダイレクトに効果を発揮できるものを取り入れたときの強大な説得力

組織に適応した形でゴールを提示することで加速しやすくなる

何があっても足を止めない！（模索し続ける）

今は前夜祭みたいな状況。とはいえやらねばならないことはまだまだ多い...

New RelicもIMS(弊社)も時代も変わっていく
いろいろなシステムで利用を広め全社的に巻き込み知見拡大+定期的な取り組み見直しを行う
時代に適応する形でアップデートすることが重要。



New Relicを活用してスピーディーなアップデートに貢献！

A vibrant, stylized illustration of a tropical beach. In the foreground, there are several tall palm trees with green fronds. The sky is a clear, bright blue. In the middle ground, there is a building with a sign that says "PRUVU" in red letters. The building has a brown roof and a white facade. To the left of the building, there is a yellow umbrella and a red lounge chair on a sandy beach. The overall scene is bright and cheerful, suggesting a warm, sunny day at a resort or vacation spot.

THANK YOU!

あ り が と う ご ざ い ま し た !